

【ねがいはしては】

平成29年5月25日

KYOWA SCHOOL

第319号

「与えない」

ずいぶん以前に出会った本を最近読みました。その中に「絶食療法」というものがあり、それを子どもたちに置き換えてみると、「ひょっとして」というヒントがかくれているのではないかという思いになりました。

水や塩などの補給は許可しても、それ以外の補給はほとんどなしの状態を続けるそうですが、正確にはもっと細やかなルールがあるようで、それをすべて羅列すると相当の量になってしまいますので、要旨だけ書かせて戴きます。つまり、一旦人の体の中をリセット状態にすることで、自ら生きようとする、復活させようとする力を呼び起こすのだそうです。

ものがあふれかえっている、豊か(すぎる?)な今の社会の中にあって、私たちは多肢から選択をし、生活しています。中には選択できないものも結構あるのですが、食の買い物に関していえば多肢です。こと体に関しては食が大きく関わり、「欲」をそそる日常の中で、その欲に負け、いつの間にか体がオーバーヒートしてしまうようです。その状態を「体を壊す」というのかもしれませんが、そこで一旦原点に戻って本来の体がもつ機能をリセットしてあげる手段が、先ほどの「絶食療法」なのかもしれません。

原点に立ち戻り、自身にとって必要なものだけを腹八分目に抑えながら吸収する。食についていえばそれが理想ということでしょう。

さて、食を「学ぶ」に置き換えてみましょう。義務教育(良い意味で、平等な内容を平等に注ぎ込む学び)を受ける子どもたちにとって、消化吸収力のよい子たちには、十分なエネルギーとして吸収されるでしょう。一方吸収力が少々緩やかな子たちには、目の前の「食」(学び)が余ってしまい、なかなか吸収しきれないで残ってしまいます。そうなるともう目の前の「食」(学び)は、異物としか見えなくなってしまいます。精神的にはいらぬもの、邪魔物、きらいなものに置き換わっていきます。

それでも、「食」(学び)の供給は止まりません。計画されたカリキュラムは、子どもたちの「こころ」など完全無視、毎日のように目の前にならび、「食え食え」(学べ学べ)とやってきます。

食は楽しむ物、「おいしい」といってニコニコしながら、しあわせを感じながらとるものです。家族で楽しむ「食」、友だち同士で楽しむ「食」……。

理想の学びとは、「たのしい」といってニコニコしながら、しあわせを感じながらするもの、クラスで楽しむ「学び」、友だち同士で楽しむ「学び」……。そんな学びが幼少期から蓄積していれば、学びの土台がしっかりと定着し、やがて自身で自身の人生を深く考えるにまで成長したとき、確かな足取りで黙々と机に向かうことになるでしょう。

最近の中学校や小学校の教材を見ていて感じるがあります。漢字であれば、漢字ドリルにあった内容のノートが出来ており、そこを練習すればそれよい内容になっています。中学英語の単語練習では、教科書の内容に沿ったもので、単語の書き入れ場所、品詞、意味などをきれいに書き込めるよう、カッコなどがあらかじめ印刷されています。

つまり、誰が練習しても同一の物ができあがってしまい、生徒それぞれの独創に富んだノートづくりは目にすることが出来ません。すべて同じノートになります。

食でも消化吸収能力に個人差があるように、学びの世界でも個々それぞれに学びのしかたがちがいます。ある子は、さっさと終わらせるためだけの精神状態。ある子は一つ一つの単語に広がる世界を楽しもうとしている。

たったそれだけでも、周りから見ればあの子は速い、あの子は遅いとなりますが、速いが良い遅いが悪いという物差しでは判断できないものがあります。

その子その子の感性を大切にするような、そんな学びの空間があってはじめて真の学びの準備が出来るような気がいたします。

「あれをしなさい、これをしなさい」と、次々に目の前に並べつけてしまうことは、子どもたちの感性を根こそぎ奪い取ってしまうような気がいたします。

「人」は個性があって「ひと」……同色に染め上げてしまうようなものは極力避けた方が良いのではと思います。

ある日、小学生のひとりが「英語の単語の練習がしたいので、4線プリント(英単語を書くように印刷されたもの)持って帰っていいですか。」と、申し出てきました。この申し出が出てくるには、私からのある一言がありました。

「ひとは皆それぞれ覚えるスピードがちがうもの、だからどのくらい練習するかは自分で決めるものだよ。自由にやっごらん……ここは宿題はないからね、宿題は自分で作るもの……。」

きっと、アルファベットを書くことが楽しく感じたのでしょう。楽しく感じたときがいちばん伸びるときです。

ちょっと不安が……この子も中学校へ行ったら英語がきれいになってしまうのかな……。

競争なし、評価なし、「楽しむ勉強」だけで、歩んでくださいね。ありがとう。